

おわりに 「変わり者」でいいではないか

「変わり者といわれています。どうしても人と同じようにはできない」

読者からそんな相談が届くことがある。私は、それ自体は短所ではないとエールを送ったうえでこう答える。

「変わり者をUNIQUEと置き換えてみてください。『唯一』という意味ですよ」
まわりの人間と違うということが短所なら、地球上のすべての人間が短所を持っていることになる。他人事のように恐縮だが、人間がすべてクローン人間のようなことから気持ちが悪し、生きていてもつまらないだろう。

基本的な常識がまったくない、ルールを守らない、凶暴などという変わり者は困ったものだが、少しくらいまわりと違うからといって、無理して型にはめることはない。そのことによって集団から孤立するようなことがあってもいいときえ、私は思う。

私は、子どもの頃から本が大好きだった。高校からエスカレーターで大学に進む時も文学部に行こうと決めていた。だが、それを知った父親から「文士にするために金を出せるか」と一喝され、経済学部を目指した。経済学部へ進学するためには、それまでの成績では不可能。猛勉強してようやく入学できた。あれほど勉強した経験はない。同じ経済学部出身の父親は商社とか金融関係の会社に入ってほしかったのだろうが、活字の世界への夢は絶ちがたく、私は新聞社に入社した。大学の同級生からは変わり者扱いされたが、私自身、変わり者だとは思っていなかった。

新聞社を辞めて、出版プロデューサーとして独立、今は著述業で現役。確かに私の世代で一応の大学それも経済学部出身となれば、マスコミ志望は間違いなく少数派だ。クラス会に参加するメンバーのほとんどは、商社や銀行など業種こそ異なるが大企業のサラリーマン出身者。定年まで勤め上げ、今は悠々自適の年金暮らし。わずかに現役の間もいるが、老舗店の跡継ぎくらいだ。キャリア的に私が変わり者と呼ばれても仕方ないのだろう。